

旧村川別荘だより



121

平成29年4月28日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました

今月も異例の開催日となりましたが、4月の月例会が開催されました。4月、5月のシフト調整を行いました。新年度を迎え歴史文化財担当に新規採用職員が配属されました。研修中だったため残念ながらご紹介できませんでしたが、文化財主事として共に活動していくこととなりますので温かくで見守っていただくと幸いです。



今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

史跡活用とガイドについて

今年度最初の月例会では、ある家族の沼津旅行記を紹介しました。

●沼津市と別荘地 ～旅の前の基礎知識～

①沼津市の位置

北に富士山、西に駿河湾を配する沼津市は東海道の陸路と海路を繋ぐ交通拠点であり、政治経済や商業、文化の中心的役割を担ってきました。

②別荘地の始まり

明治初期から保養所として発達し、政財界の著名人による「海浜型別荘」などが建設されました。

明治22年、東海道本線沼津駅が開業し、東京から4時間で結ばれるようになると、相次いで旅館・ホテルが建設され、皇室も「沼津御用邸」を構えました。

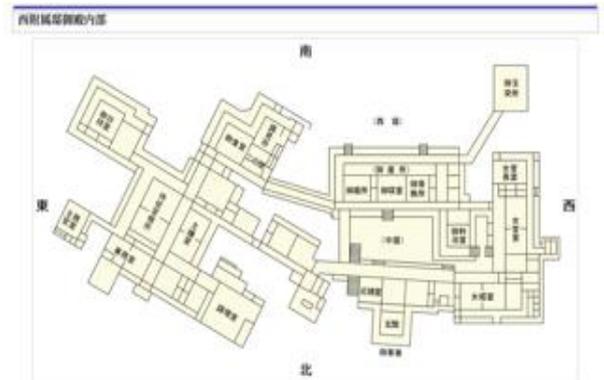
明治末期から大正期にかけては、若山牧水など文人の別荘が建設されました。牧水は、市民と共に千本松原の保護に尽力し、自然保護運動のさきがけとなりました。

●「沼津御用邸」行ってみました その1♪

明治26年、大正天皇の静養のために建設されました。しかし、昭和20年7月の沼津大空襲で本邸が焼失。昭和44年には御用邸が廃止となり、翌年、沼津御用邸記念公園として開園されました。

平成28年に、国の名勝指定を受け、現在は、旅館業者が「指定管理」を受け東西附属邸と庭を公開し、展示室、ロケ撮影場所、レストラン、カフェなどとして活用しています。

◇御用邸レイアウト◇



◇御用邸の外観◇



〈感想 ☆3〉

空襲焼失の結果、オリジナルの建物ではないが、波打つガラスを再生産するなど、部材にこだわりよく復元されていました。また、今上天皇が乗った自転車、調度類なども復元され、上手に展示してありました。松林の保存もよく、四季折々の花はもちろん、レストラン・カフェなども新たな魅力を加えていました。

ガイドさんは、「つかず、はなれず」の距離感。知りたい人にはより詳しく、そうでない人にはそれなりに…と過剰感がなく「おもてなし」の対応が好印象でした。

●「葦山反射炉」 行ってみました その2♪

葦山反射炉は静岡県伊豆の国市にあります。
 反射炉とは、大砲鑄造に使用された金属溶解炉のこと。
 耐火レンガ造りで、石炭などの火力を「反射熱」で集中させ、千数百度で鉄を溶解するのです。
 幕末の安政元年、列強諸島からの侵略に備えるため江川英龍が自領に設置を開始。安政4年に完成し、18ポンドカノン砲を鑄造しました。

慶應2年、江川家の私営となるも、明治維新後は国が管理し、大正11年には史跡指定を受けました。

平成27年には明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界文化遺産に登録されました

〈感想 ☆彡〉

「世界遺産」となったためか、ガイダンス施設は立派。しかし、現物にはほとんど説明がない状態でした。ガイドは団体のみを対象としているようで、個人客はまぼスルー。残念な印象でした。

土産物屋の脇の坂道を登っていくと、地元の方が「つるし雛」の展示を行っており、ここでおもてなしを受け印象アップ。さらに坂を上って行くと「反射炉と富士山」が！おもてなしの仕組みや宣伝など再考したほうが良いと感じました。

◇ダブル世界遺産◇



沢山の人々を魅了させる史跡は、今、様々な方法で活用され、さらなる魅力が引き出されています。その中で大きな役割を担っているのが、史跡を案内して下さるガイドさんのおもてなしです。

今後もガイドのみみなさんのお役に立てる情報を発信していきますのでよろしくお願いいたします。

イベントのお知らせ

●「血脇守之助の生涯と功績」

4月22日(土) 14時から、アピスタホールにて、杉村楚人冠記念館講演会が開催されました。

●「大正我孫子写真館」

期間：4月25日(火)～7月2日(日)

場所：旧村川別荘

旧村川別荘100年を記念して、「100年前の我孫子」をテーマに村川家に残る写真などを展示します。

●旧井上家住宅でのイベント

・パネル展「井上家の歴史①江戸から布佐へ」

期間：4月28日(金)～9月3日(日)

場所：新土蔵

・「二番土蔵工事見学会と土壁塗り体験」

日時：5月13日(土) ①10時～ ②14時～

内容：左官職人指導の下、土壁塗りに挑戦



●J:COM「東葛調査隊！」で我孫子を紹介!!

テーマ「数をこたわる」

5月1日(月)～5月7日(日)

(月/水/金) 8時、12時半、18時

(火/木/土) 8時半、12時半、18時、22時

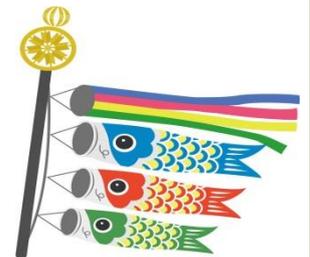
連絡・意見交換など

●庭園だより

・春を迎えた旧村川別荘。小さな草花にも様々な効用があるのですね。初めて煎じて飲んだ人すごい!

●5月5日は「こどもの日」

母屋の床の間のある和室に、鎧兜を飾りました。交通事故や病気などから大切な子どもたちを守ってくれますように…と願いを込めて飾りました。



3月の来荘者数

平成29年3月の来荘者数は、757人でした!

(平成28年度の来荘者数は4,838人でした。)

平成28年3月 1,285人 平成27年3月 955人

次回の月例会は・・・

次回の月例会は、6月1日(木) 9時30分～旧村川別荘新館で開催いたします。よろしくお願いいたします。

旧村川別荘だより

122



平成29年5月30日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

5月1日(月)に月例会が開催されました。あっという間に5月も下旬です。新緑真っ盛りの旧村川別荘は、いつになく気持ちの良い日が続いています。

展示「大正我孫子写真館」について

今年は、大正6(1917)年に村川先生が我孫子に土地を購入されてからちょうど100年という節目を迎える年です。それを記念して、村川家所蔵の写真や市民の方から提供された我孫子市内のおよそ100年前頃の写真を4月25日より一挙に展示しています。

昔の人々がどのような場所でどのように過ごしていたのか、昔の人が見た風景には何が写っていたのか、それを読み解く展示としてぜひじっくりご覧いただければと思います。



←桜の季節の
我孫子駅前
(大正時代)

●写真を写したカメラの歴史

今の時代は当たり前のカメラ、そして写真ですが、そのルーツを紐解いてみると新しい発見があります。ここでは、少しカメラの歴史を辿ってみます

*フィルムの歴史

1850年代には銀板写真から湿板法への移行、1880年代には、乾板方への移行(ガラスからセルロイドへ)、そして1890年代になるとフィルムへの移行となりました。



*カメラ本体の歴史

銀板写真の頃は、箱型でスタジオや固定して撮影されるタイプであり、その後1856年に軽量化がされ、布製の蛇腹を用いたカメラが開発されました。1871年に写真乾板が発明されて、カメラマンは既製品を使用することが可能になり、この頃よりカメラが持ち運びできるほど小型化しました。そして、感度の向上から露出時間が短縮となり、シャッターが必要となり、1900年頃にはカメラに内蔵することが一般的となりました。

*日本でのカメラ

1839年の銀板写真の発明、その4年後にはオランダ船より長崎に日本最初の写真機材が持ち込まれています。1848年には、日本へ正式に写真が伝わったとされているが、日本人によって写された写真で今も残っている最古のものは、1857年に写された鹿児島しまづなりあきらの島津斉彬の銀板写真とされています。

そして、写真の技術を学んだ人々が各地で「写場しゃじょう」(今でいう「写真館」)を開き、肖像写真などが写されるようになりました。現在でも幕末の志士たち有名人が移されている写真は貴重な記録となっています。

1903年に、小西本店(現コニカミノルタ)からチェリー手提暗箱が日本で最初にアマチュア向けに発売されました。その後、カメラが一般的に普及したのは、昭和に入ってからと考えられています。

*撮影競技会

1931年11月3日に全関東写真連盟の第12回撮影競技会が手賀沼湖畔で行われ、結果や優秀作品は『アサヒカメラ』に掲載されました。



▲アサヒカメラ撮影会で撮影された風景
(杉村楚人冠語記念館蔵)

テーマは「近代色」、「湖畔秋色」、「屋外人物」「田園風景」でしたが、『アサヒグラフ』に連載している「湖畔吟」にはそういった風景が毎号のように描かれており、単行本としても出版されていたので、参加者自身も手賀沼の風景や我孫子の様子をよく知っていたと思われます。

この撮影競技会開催に向けて、杉村楚人冠の日記には、「関東写真大会を我孫子に開く件につき成沢氏と相談」とあり、楚人冠自身が、写真連盟の理事であり『アサヒグラフ』の後輩編集長であった成沢玲川なるさわれいせんに我孫子での開催を積極的に働きかけていることが窺えます。

楚人冠が、“カメラ”という、物を通して記録を残す、当時の貴重な道具を使って、手賀沼の景勝地としての価値を広めていこうとしていたことがわかるエピソードでもあります。この撮影競技会は、400点以上の応募があったといい、盛況のうちに終わったことがわかります。

●展示写真について

今回の展示会では、村川家のアルバム、市民のアルバム、そして市民の方から提供のありました写真など、多くの種類の写真を展示しています。



左の写真は、明治44（1911）年頃に撮影された新築の郵便局です、右側には自転車が。当時は、車と同様に、自転車も大変高価なものでした。



こちらは写真絵葉書。現在の我孫子第一小学校の様子。

校舎小等高宮孫子孫我るれ成製新

今ご紹介した写真は、展示のほんの一部にしかなませんが、100年近く前の写真を、同時期に建てられた旧村川別荘でご覧いただくことは、当時のことに思いを馳せる一つ的手段だと思います。写真そのものが珍しかった時代、人々がどのように過ごしていたのか、想像することも面白いかもしれません。展示は7月2日（日）まで開催します！

ぜひ、じっくりご覧くださいね☆ (^_^)/

旧井上家住宅土壁塗り体験について

●初の体験型イベント

旧井上家住宅では、5月13日（土）に土壁塗り体験を



▲職人さんに聞きながら、いざ塗り！！

行いました。当日は雨天にも関わらず、58名のご参加をいただきました。今後も少しずつイベントを増やしていきたいと思っております！！

連絡・お知らせなど

●庭園だより

- ・季節の動植物をご紹介いただきました。

●発掘された日本列島展 2017

- ・以前、文化財展でご紹介しました白山所在の“根戸船戸遺跡 1号墳”の出土遺物が、6月3日（土）から、江戸東京博物館を皮切りに全国5会場（東京→青森→三重→愛知→長崎）で千葉県代表遺物として紹介されます。ご興味がある方は、東京にお出かけの際にはぜひご覧ください！！

▼今回寄付をいただいた古銅時代当初のレプリカも展示します。



4月の来荘者数

平成29年4月の来荘者数は、397人でした。

(参考) 過去の来荘者数
平成28年4月 293人
平成27年4月 395人
平成26年4月 365人

次回の月例会は・・・

次回は平成29年6月1日（木）9時30分から旧村川別荘新館で行います！！

心地よい季節の先には梅雨が待っていますね…。気温差がありますが、体調には十分気を付けましょう（私は少し体調を崩しました。。。）。(*^_^*)

旧村川別荘だより

123



平成29年6月30日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

6月1日(木)に月例会が開催されました。お天気の良い日が続いていましたが、いよいよ梅雨にも入り、雨も多い季節となりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。早いもので、21日(水)には夏至を迎えました。当日はあいにくの雨でしたが、また1つずつ季節が進むのを感じますね。



旧井上家住宅工事進捗状況について

今回は、昨年からの二番土蔵の保存整備工事真っ最中の旧井上家住宅の現在の様子について、スライドを交えながら進捗状況をお伝えしました。二番土蔵では、5月13日(土)に土壁塗りの体験イベントも行き、工事現場説明会も実施しました。そのため、土壁塗りについて、左官職人の歴史にも触れてみました。

* * * * *

◆左官とは？

古い記録によると「可部奴利」^{かぶぬり}「土巧」^{つちのたくみ}「泥工」「石灰工」「白壁師」「壁大工」「壁塗り」などの呼称が使用されていたそうです。「左官」という言葉がはっきりと古文書に残されたのが、慶長10年(16世紀末)だとされ、続いて17世紀初頭の記録に「さくあん」という記事が登場します。このことから、おそらく、江戸初期にはまだ「左官」をはじめ、他の名称「壁塗」などが混用されていたと考えられます。その後段々と「左官」が主体となり、「壁塗り」という言葉は使われなくなってきました。京都の左官協同組合蔵の古文書では慶長、元和の年号があるものは「壁塗り仲ヶ間」と書かれ、左官の文字が使用されるのは元禄からです。



“左官”という言葉の一つとっても、脈々と受け継がれてきた古い歴史があるのがわかりますね。

さて、旧井上家住宅の工事の話に戻ります。以前の工事のことから振り返ってみたいと思います。

●現在までの流れ

27年度に表門・裏門・外塀の保存整備工事を行いました。28～30年度には二番土蔵の保存整備工事を行うことになり、現在は工事進行中です。

【1】平成28年度の工事内容

①蔵より一回り大きな覆い屋を作り、蔵を囲います。



①

②記録しながら瓦を降ろし、部材の修理あとを調査して、解体していきます。使える瓦や部材、壁土はできるだけ再利用します。

土壁は藁と土を足して半年間ほど、寝かせておきます。



②

③沈下を起こしていた礎石を外し、地盤強化を行います。



④礎石を水平に並べ直し、柱を建て、木で屋根の下地を作ります。木は腐った箇所を取り除き、できるだけ元の部材を使用します。



【2】

平成29年度の工事内容
⑤柱の間に竹を組み入れ、藁縄で固定します。

このことを
竹(たけ)木(こ)舞(まい)
といいます。

写真参照 →→→



⑥竹木舞に、寝かせておいた土を押し込み「荒壁付け」をします。



上記写真は5月13日に行われた土壁塗りの体験の様子

⑦荒壁の上に中仕上げを6工程施します。

⑧屋根瓦を葺き直します。(再利用+新たに焼き直した物)そして完成へ…！！

旧井上家住宅はまだまだ発展途上です。これからも様々なイベントを通じてその様子をお伝えしていきますのでお楽しみに☆(^_^)/

葛飾北斎とその時代について

●我孫子市民文化祭 60 回記念事業

この度「特別展 葛飾北斎とその時代」という展示会を市民プラザで行います！葛飾北斎を中心とした浮世絵師たちの肉筆・版画類約50点を展示します。

期間：7月15日(土)～7月31日(月)

場所：市民プラザ 午前10時～午後5時 (無料)

また、特別講演も行います！

*「葛飾北斎とその時代」

講師：安村敏信氏(国際浮世絵学会常任理事)

日程：7月15日(土) 午後1時半～午後3時

場所：南近隣センター(けやきプラザ9Fホール)

※当日正午より先着順約80名に整理券を配布します※

連絡・お知らせなど

●発掘された日本列島展 2017

・先月もご紹介しました白山所在の“根戸船戸遺跡1号墳”の出土遺物が、江戸東京博物館で千葉県代表遺物として紹介されています。展示は7月23日(日)までとなります！

次回の月例会は・・・

次回は平成29年7月1日(土)9時30分から旧村川別荘新館で行います！！(*^_^*)

平成29年8月30日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより



124・125 合併号!

今月は夏休み合併号です!

あっという間に7月が始まり、そして8月が過ぎていきました…。みなさまはどんな夏でしたか?7月はうだるような暑さが多かった印象ですが、8月は一転して、雨の多いお盆となりました。冷夏という言葉を久しぶりに聞いたような気がします。



今月は、7月・8月を振り返るおたよりです。学んだことを思い出しながら見ていきましょう。

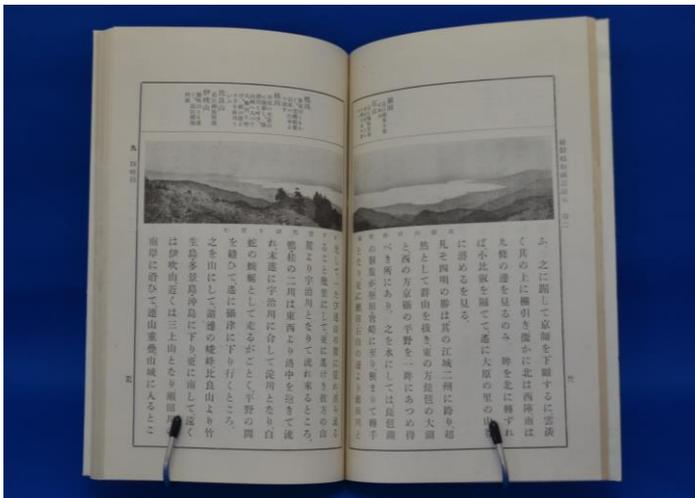
杉村楚人冠記念館のテーマ展示について

7月の月例会では、杉村楚人冠記念館・学芸員高木さんから説明をしてもらいました。5月20日(土)から7月9日(日)まで行われた展示では「教科書にのった楚人冠」と題して、教科書で紹介された楚人冠の作品を紹介しました。

○教科書にのった楚人冠

このテーマ展では、主に旧制中学校、旧制高等女学校の教科書に掲載された楚人冠の作品を紹介し、当時の人々が学業を学ぶ中で、どのような作品に触れていたのかを知る展示となりました。どういった教科書にどのような内容が掲載されていたのか、順番に見ていきましょう。

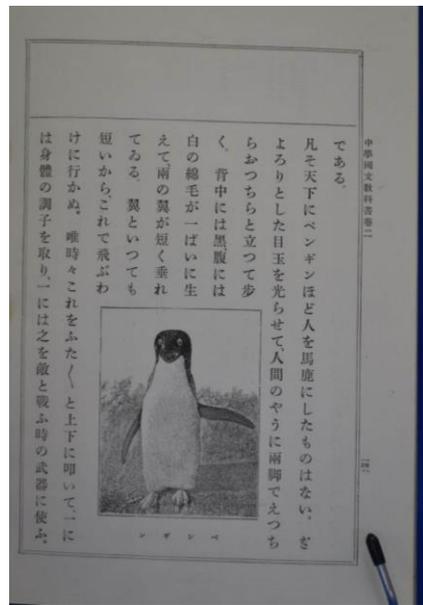
◆『新制昭和国語読本』巻二(育英書院、昭和6年版)



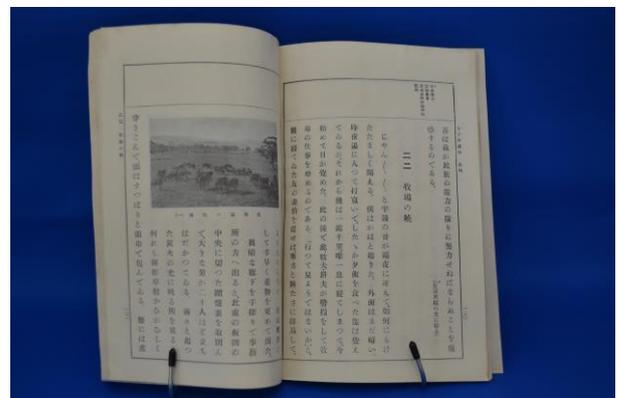
紀行文「^{しめいがたけ}四明嶽」(『へちまのかは』大正3年所収)を掲載しています。比叡山の山頂上の四明ヶ嶽からの眺望を説明する部分に合わせ、同地点から望む琵琶湖の写真が掲載されています。両ページに渡るパノラマ写真となっており、現代にも通じるものがあります。

◆『中学国文教科書』巻二(光風館書店、昭和6年版)

随筆「ペンギン」(『へちまのかは』大正3年所収)を掲載しています。ロンドンの動物園で見た経験や各種の南極探検記をもとにペンギンの様子を書いた文章です。数多くの楚人冠の文章の中でも、教科書への採用数はこれが最多です。



◆『女子新読本』巻四(至文堂、大正14年版)



楚人冠が執筆していた当時はまだ珍しかった大規模酪農経営を行っていた福島県の岩瀬牧場を訪問し、その様子を描いたルポの一節「牧場の暁」(『ひとみの旅』大正2年所収)を掲載している教科書です。

文部省唱歌「まきばの朝」のモチーフになった文章と見られており、この作品が様々な教科書に掲載されているということは、「まきばの朝」作詞者杉村楚人冠を想像させる一節となっています。参考までに歌詞を載せますね♪よく歌った思い出があります。(*_^*_)

【歌詞：文部省唱歌 『牧場の朝』】

ただ一面に立ちこめた
牧場の朝の霧の海
ポプラ並木のうっすりと
黒い底から勇ましく
鐘が鳴る鳴る かんかんと

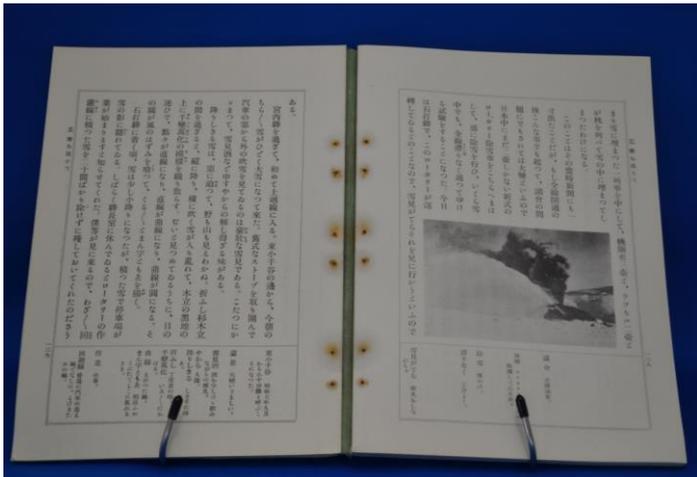
もう起き出した小舎小舎（こやごや）の
あたりに高い人の声
霧に包まれ あちこちに
動く羊の幾群（いくむれ）の
鈴が鳴る鳴る りんりんと



今さし昇る日の影に
夢からさめた森や山
あかい光に染められた
遠い野末に牧童の
笛が鳴る鳴る ひいひいと

* * * * *

◆『長岡郷土読本』（目黒書店、昭和7年版）

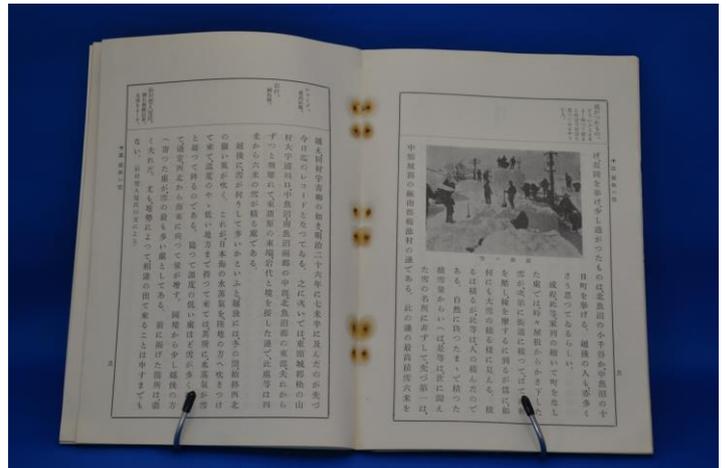


紀行文「雪を追ひて」（『と見かう見』昭和11年書所収）を掲載している教科書です。上越線全通に向け、導入されたロータリー車（除雪車）を楚人冠が見に行く話で、地域の発展のため、上越線に期待していた事情も反映して採用されたと考えられます。

◆『郷土読本』上巻（新潟目黒店、昭和7年版）

新潟県の郷土教育用の小学校教材で、楚人冠が最初に新潟県を訪れたときの記事から「越後の雪」（『越後記』明治44年所収）を掲載しています。

雪の実見内容だけではなく、新潟県に雪が多く降る原理や積雪最高地点の記録なども引いてまとめています。郷土教育において、雪について学ぶためには適切な文章だったのだらうと感じます。



* * * * *

杉村楚人冠の残した文章は、「アサヒグラフ」だけではなく、教科書にも掲載されました。それは、楚人冠の文章が受け入れられていたからに他なりません。当時の人々が主に中等学校教育の中で、どのような作品に触れていたのかを感じることができますね。

教科書は、いつの時代も手元にあって、切っても切り離せない大事な書でした。電子化も叫ばれる昨今ですが、教科書の文化を大切にしていきたいですね。

そしていま、杉村楚人冠とその同世代の友人たちの青年期の活動を紹介する展示「明治時代の仏教青年『新仏教』の足跡」が始まっています。展示は10月1日（日）までの開催です。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

さて、つづいて8月に行った月例会のお話です。8月の月例会では、7月15日（土）から7月31日（月）まで行った「葛飾北斎とその時代」について、実際に我孫子で展示されていた北斎の絵画（筆者の好みもありますが）を中心に、解説を行いました。また、実際に浮世絵とはどういったものなのか、絵具には何が使われていたのか、出来る範囲での紹介を行いました。振り返ってみましょう。(*_^*_)

☆「葛飾北斎とその時代」



第六十回我孫子市民文化祭記念事業
特別展 葛飾北斎とその時代
浮世絵師の代表格 葛飾北斎を中心に同時代に活躍した近世絵師たちの内情・風俗的・心的な姿を大公開

第60回我孫子市文化祭記念事業の一環として、「葛飾北斎とその時代」という展示会を実施しました。15日のオープニングから終了まで、多くの人々に来ていただきました。

平成29年7月15日(土)～7月31日(月)
会場/我孫子市民プラザ
午前10時～午後6時 会期中無休/入場無料

葛飾北斎とその時代

浮世絵肉筆 約四十点

浮世絵版画 約十一点

第60回をこえる我孫子市民文化祭を記念し、我孫子市教育委員会と公益財団法人清水軒記念文化振興財団の共同主催で、浮世絵肉筆・版画作品の展示会を開催します。近世絵師の中でも代表格の葛飾北斎の作品を中心に、数川広重、萩原英良、東洲斎写楽、喜多川歌麿など同時代に活躍した浮世絵師の作品も展示します。この機会に日本の近世絵師の素晴らしさと奥深さを体感してください。

《公益財団法人 清水軒記念文化振興財団》
清水軒記念文化振興財団の前身である財団法人清水文化会館は、昭和30年に寺嶋義一氏によって、千葉県船橋市に設立されました。江戸時代には、寺嶋敏次氏が引水町街並に面して居を構え、名主を兼ね、また「換筆軒」という私塾を開きました。換筆軒には、清水義輝は多くの友人墨客が立ち寄り、書画を授けられました。その書画作品群をはじめ、我孫子市の各職師を氏が体系的に収集した貴重な日本画コレクションは、国内外でも名高く、日本美術研究の一端を担っています。

月例会では、この作品展の中から作品をピックアップしてご紹介しました。おたよりでは、葛飾北斎の生立ちを今一度見て、作品を振り返ります。

○葛飾北斎

- 宝暦10(1760)年9月23日 江戸本所割下 下水(現在の墨田区亀沢)に生まれる
- 明和元年(1764年) 幕府御用達鏡磨(きょうま)師であった中島伊勢の養子になり、14歳頃から木版彫刻を学ぶ。貸本屋の丁稚、木版彫刻師の徒弟→貸本の絵に関心をもち、画道を志す
- 安永7年(1778年) 浮世絵師・勝川春章(かつかわしゅんしょう)の門下となる(19歳にデビュー) 号は春朗(しゅんろう)

→狩野派や唐絵、西洋画などを学び、名所絵(浮世絵風景画)、役者絵を多く手がける。

北斎の絵画には以下のような画期に分かれて紹介されることがあります。

- ◆春朗期 安永7(1778)年-寛政5(1793)年 師匠である春章から学んだ役者絵、相撲絵を描く。
- ◆宗理期 寛政6(1794)年-享和3(1803)年 師匠没後、勝川派から去り寛政6年後半には俵屋宗理を襲名。装飾風ではなく、紡錘形の細身の美人画を描く→宗理風と呼ばれる。平仮名落款の洋風版画着手。
- ◆葛飾北斎期 文化元(1804)年-文化6(1809)年
 - 読本挿絵に情熱を注ぐ(※読本とは中国の伝奇小説を波乱万丈の物語をより展開させるもの)
 - 曲亭馬琴との競作→1400図に及ぶ読本挿絵
 - ※代表作は「椿説弓張月」
- ◆戴斗期 文化7(1810)年-文政2(1819)年
 - 号を戴斗とする 読本挿絵→絵手本出版 ※絵手本とは教科書⇒門人が全国各地に
 - 『北斎漫画』初編人気→文政2年十編で終了
- ◆為一期 文政3(1820)年-天保4(1833)年
 - 風景版画の大成期→「富嶽三十六景」

* * * * *

葛飾北斎は長い人生の中で、多くの作品を残しました。今回我孫子で開催された作品展の中には普段は見ることのできない貴重な作品も多くありました。



【凱風快晴】

凱風は南風のこと。青空にいわし雲。山頂から赤く焼ける色が次第に薄くなり、裾野からの青と溶け合う。赤富士とは、晩夏から初秋にかけて、早朝あるいは夕方方の赤味を帯びた太陽光により、赤茶けた山肌の色が強調されているようです。赤や青のグラデーションは摺り師の配分によって異なるので、現存する作品と見比べてもよいかもしれませんね。



【青富士】

赤に対しての青富士。異なった摺りの珍しい作品。当初はオランダから輸入された安価で発色の鮮明なベロ藍と呼ばれる化学染料を使い、藍一色で構成しようとしたものであった。藍一色は評判があまりよくなかったようで、後摺では多少の色が加えられた。



【山下白雨】

白雨とは、夏の夕立のことで、黒々とした雨雲に覆われた裾野に巨大な稲妻が一閃する。当然驟雨が降り注ぐはずだが、北斎は闇の中の出来事として見る者の想像に任せることにした。山の上々はそれに対して快晴となっていて、その光を受けて、左奥の山頂は緑に覆われた姿を見せる。富士の上下は天国と地獄が対比されているようです。



【団扇と美人図】

- ・花鳥版画の横大判シリーズ、俳句を添えた中判シリーズ、鴨や鯉、雉と蛇等の珍しい画題を加えた一群の団扇絵も完成度が高い美人画
- 女性の体をS字型にとらえ、形へこだわりをもつ
- ・籠甲やかんざし→最上の上客ありか。仕事前の身支度最中？

【登龍図】



「不二越の龍」だけを取り出し、掛け幅に仕立てたのが本図。登龍は、出世を象徴する吉祥画。黒雲の中を突き進む龍の身体は墨を主体として、描かれるが腹の部分に淡い赤を使い、瞳には青を入れています。背中部分の鋭い突起はいかにも堅そうに描かれ、腹部の柔らかさとは対照的。爪は鋭い牙を思わせる。立体感あふれる描写も素晴らしい。87歳の老人が見据える天空に何が見えたか。龍はどこことなく不安気。

北斎の展示は17日間の会期で、訪れた人は8,893人を数えました。北斎漫画など、葛飾北斎に今一度スポットが当たっています。これを機に北斎について、学んでみる機会を設けてはいかがでしょうか？

「龍の九似」について

●龍の九似とは？

月例会でも話題になった龍について、少し書きますね。

龍の九似
九種の動物の力を一身に結集

 目=兎 未来を見通す洞察力の象徴であり、一切の邪を払う輝きを放つ	 爪=鷹 空を支配する最強の猛禽類のように鋭く、つかんだ獲物を絶対に離さない	 角=鹿 神の使いである鹿に似ているのは、龍が聖賢神様の使者であるため	 耳=牛 うなじ=蛇 財運の象徴である蛇に似ており、金運隆盛、開運出世を祈念している	 鱗=鯉 長寿の象徴である大鱗が化身したとの謂れを持つ	 尾=牛 現世で起こる吉祥の兆しを運らざる聞き取る聴力を誇る
---	--	---	---	-----------------------------------	--------------------------------------

頭=驢
無限の睿智と経験が詰まっており、頂点に立つ虎と同等の力を持つ

手=虎
「龍虎」という言葉があるように、自然界の頂点に立つ虎と同等の力を持つ

【九似】とは、龍の九つの部位がそれぞれ他の動物に似ていることを言います。角は鹿、頭は驢、耳は牛、目は兎、鱗は鯉、項は蛇、腹は蛟？蛭？、掌は虎、爪は鷹とされています。(上記図を参照。) 龍については、想像上として、その成り立ちも含めて諸説あるそうです。「北斎と龍」、こんな題材で、調べ物をして面白いかもしれませんね。

連絡・お知らせなど

●日本女子オープンゴルフ選手権

我孫子ゴルフ倶楽部にて、9月28日～10月1日 まで、女子オープンが開催されます！

●次回の月例会は・・・

次回は平成 29 年 9 月 1 日 (金) 9 時 30 分から旧村川別荘新館で行います！！(*^_^*)

平成29年9月29日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

126



市民ガイド月例会が開催されました

9月1日(金)に月例会が開催されました。いよいよ9月に入りました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。8月は、思ったより冷夏であったのを見ると9月での日差しや夏日は貴重でしたね。

10月初旬には竹灯籠も控えています。準備等、みなさまにもご協力いただくことが多いと思いますが、またよろしくお願いたします。



“黒曜石”について

今回は、8月1日(火)～31日(木)までアピスタ2階展示スペースで行っていた「黒曜石がいっぱい!」の展示から紹介をします。

* * * * *

黒曜石は、今から約四万年前の旧石器時代に登場し、当時鉄器など金属が普及していなかった時代の刃物の材料として広く利用されてきました。

黒曜石はガラス質の火山岩で、その色は黒い色から茶色、赤褐色、中には半透明の石材もあり、様々です。そしてとても硬いのが特徴の1つです。黒曜石は、原石を割ると非常に鋭い断面となることから、ナイフや石鏃(矢じり)として、当時から人々の調理道具や狩猟道具などで使用されており、様々な動物をとらえ、調理をするということにおいて、優れた役割を持っていたのも事実です。

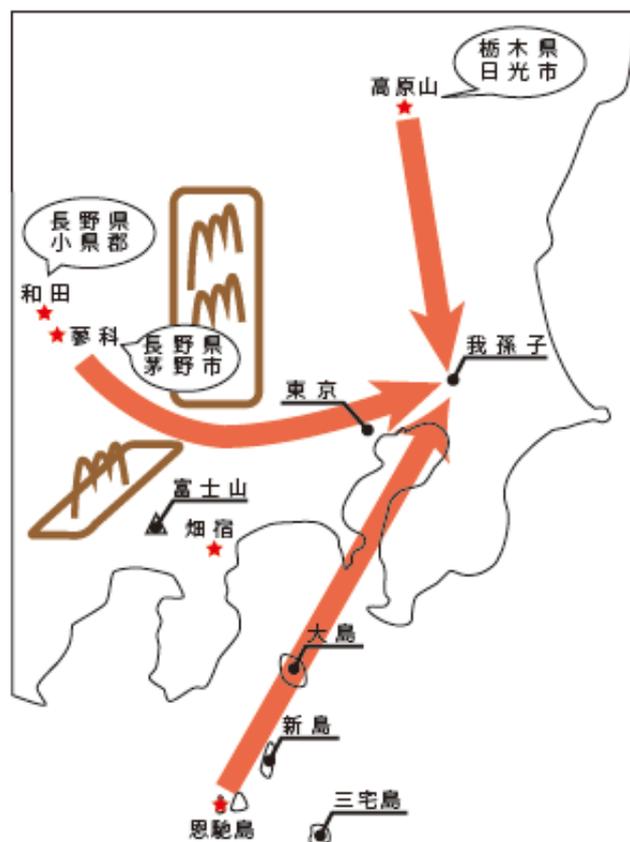
また、黒曜石は特定の場所でしか採れないことから、発掘調査など、遺跡から出土した黒曜石がどこで採掘されたもの



なのか、**蛍光X線分析法**という方法(X線を当てると素材を構成する元素に特有のX線が発生すること

を利用した方法)によって、どの地域から運ばれてきたのか、石材のルートを推定することができます。そこから、関東・中部地方の主な黒曜石の原産地は、**栃木県の高原山**、**長野県の和田(和田峠、女男倉、鷹山)**、**諏訪(星ヶ塔、星ヶ台)**、**箱根(畑宿、鍛冶屋、芦之湯)**、**天城(柏峠)**、**神津島(恩馳島、長浜、砂糠崎、沢尻湾)**があります。

我孫子市内における遺跡でも、発掘調査によって出土した矢じりなどが、どこの産地で採掘されたものなのか、その概要もわかっています。この度、アピスタ2階で展示を行った際に使用した黒曜石は、いずれも縄文時代の遺跡の発掘調査で出土した石器です。分析結果によると、**栃木県の高原山**、**東京都伊豆諸島の恩馳島**、**長野県の和田峠(東餅屋、蓼科)**、**神奈川県**



箱根(畑宿)で産出されたものだと判明しています。(詳しくは地図をご覧ください。)

しかしながら、栃木県の高野山から我孫子市までは約120kmの距離があり、長野の方面からは山越えを、伊豆諸島の恩馳島からは地図を見て分かるように、海を経由しなければなりません。そのため、我孫子に石材が届くまでには、当時としてはとてつもなく長い道のりを経て運ばれてきたことがわかります。当時の人々のことを思うと頭が下がりますね。

さて、我孫子市の新木東台遺跡(新木)、並塚東遺跡(高野山)から出土した黒曜石は、石器の材料となる剥片を剥ぎ取った石核(残核)が含まれていました。このような事例から、黒曜石の一部は、原石および石核で我孫子地域に持ち込まれて、集落内で加工されたと考えることができます。

我孫子の古代人が使用していた石器が、遠く離れた土地で採れた石材であるということを踏まえると、当時の人々が原産地からどのようにして石材を運んだのか、昔の人々がどのような暮らしをしていたのか、多くのことを想像できますね。

アピスタでの展示は8月いっぱいでしたが、引き続き教育委員会で、世界の黒曜石の原石とともに展示を行っております。お立ち寄りの際はぜひ見て下さい♪

佐久間さんが表彰を受けました！！

●我孫子市長より感謝状贈呈！！



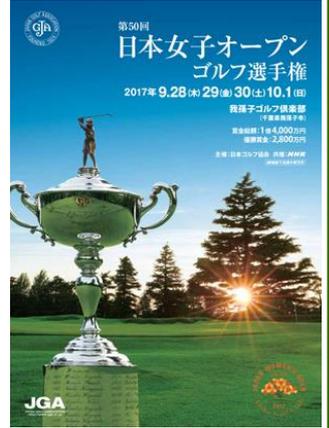
この度、佐久間さんが表彰を受けました！！「広報あびこ」で30年間にわたりコラムを書き続けてくださいました。(1987年4月から2017年6月)旧村川別荘月例会での庭園だよりも、本当に素晴らしかったです。長い間お疲れさまでした。(*^_^*)

連絡・お知らせなど

●全日本女子オープンゴルフ

日本の女子プロゴルフメジャー大会の1つである日本女子オープンゴルフ選手権の記念すべき第50回大会が我孫子市内にある我孫子ゴルフ倶楽部にて開催されます。日にちは、

9月28日～10月1日です。ガイドのみなさんの中にも観



に行かれる方がいらっしゃるようです。

観戦に行かれた方は、どんな雰囲気、どんな様子だったかなど、教えてくださいね～！！(^_^)

●竹灯籠の夕べ

今年も、竹灯籠の季節がやってきました。今年早いもので11回目となりますが、より良いイベントにしていけるように準備しております。初秋を感じながら、音を聴いていただければと思います。



日時：10月6日(金)、7日(土)

いずれも17:00～19:00

内容：6日(金) SPレコードの鑑賞会、7日(土) コカリナの演奏会

※両日とも、古い我孫子の写真を集めたスライドショーを行います。

※“フォトスポット”として、写真を撮ってもらうコーナーを設けたいと思います。

●旧井上家住宅(新土蔵内)土蔵古本市開催！！

7月にも行った古本市ですが、第2回目を行うことが決定しました。ぜひ遊びに来てください。

日時：10月21日(土)、22日(日)

いずれも9:00～16:00

次回の月例会は・・・

次回は平成29年10月1日(日)9時30分から旧村川別荘での月例会ののちに、**白樺文学館**へ移動し、白樺文学館での展示を見ます。今回は、「原田京平第4弾」です。

よろしくお願いたします！



旧村川別荘だより

127

平成 29 年 10 月 31 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：木村、田中、手嶋
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

10月から11月へ・・・。

10月になり、安定したお天気が続くかと思いましたが、思わぬ長雨に戸惑った方もいらっしゃるのではないのでしょうか？（洗濯物が乾かず、悪戦苦闘の日々が続いた筆者です…）

今月は、10月1日（日）に月例会が行われました。我孫子ゴルフ倶楽部で行われた全日本女子オープン最終日という日も重なって、ゴルフ観戦のガイドの方も多かったようで、少人数とはなりましたが、アットホームな月例会でしたね。（*_^*）



白樺文学館に着いて、まず稲村学芸員から改めて今回の展示について、ガイダンスを行いました。

白樺文学館へGO！！

今月の月例会では、新館においてシフト調整などを行ったのち、白樺文学館へ向かいました。現在、白樺文学館では、企画展「原田京平をめぐる人々ー白樺と民藝の絆ー」と題して、9月27日（水）から11月26日（日）まで、原田京平シリーズ第4弾（最終回）を展示しています。

●一原田京平の交友関係 家族・友人・師一

ここで、原田京平のおさらいをします。京平は、画家として、歌人として我孫子を描き、我孫子を詠んだ芸術家です。（恭平・聚文・和周の名を持つ）

1921（大正10）年10月、別荘地の先駆けでもある島田久兵衛が築いた島久別荘に移り住み、志賀直哉が我孫子をさった1923（大正12）年3月以降、志賀邸の留守居役として1928



（昭和3）年まで我孫子で過ごしました。原田が過ごした約7年間の我孫子での生活は、1936（昭和11）年に40歳という若さで亡くなるまでの芸術家人生を振り返るだけでも特別な時期であったと考えられます。この度、原田の交友関係を中心に資料を展示しています。



原田京平の資料群には、様々な人物からの手紙や絵画資料などが保存されています。

特に志賀直哉邸の崖上、離れに居住した中出三也と甲斐仁代に関する資料（私も詳細は勉強中です。）は、その交友関係の深さを表すのに十分な資料とのこと。一方で、妻・睦を通じ、富本憲吉などの著名人との関わりもありそして民藝関係の人々との交わりもありました。原田が全国を歩き回っていた背景には、絵画や写生をはじめ、民藝そして民俗等、幅広く興味を持っていたからこそだと思います。

●原田京平の世界一画家・歌人・夫・父として一

京平の資料を紐解いていくと、故郷の浜松や天竜川を上り、阿多古という小さな村で暮らしていたか

らこそその資料も残しています。それは滝を描いた日本画でした。油彩画と異なった繊細さを示しているものです。



原田京平は、画家として春陽会（1922年（大正11年）1月14日に設立）に属していました。春陽会は、東洋画風の手法や発想に立つ画風の作品が多く含まれているそうです。原田は、多くの油彩画を出品していることが分かっていますが、そのほとんどは所在不明のままとなっています。今回の展示では、そんな中でも春陽会に出品された作品5点を発掘し、遺族から借りることができ展示しています。

また、京平が作った短歌も合わせて多く展示をしています。歌人としても活動していた京平の別の一面も見ていただければと思います。

展示は11月26日（日）まで。原田京平の企画展示はこれで最終回です。ぜひご覧ください♪

竹灯籠の夕べ

10月6・7日は11回目の「竹灯籠の夕べ」の予定でしたが、6日（金）は、生憎の雨で中止となりました。7日（土）は、お天気が回復し、無事にコカリナの演奏会を開くことができ、滞りなくイベントを行うことができました。みなさんのご協力、ありがとうございました！

(*^_^*)

また、6日（金）に行う予定だったSPレコードの鑑賞会も、急きょ新館で行うこと



11回目ということで、ハート♡を作りました。

は、賑やかにコカリナの演奏会とSPレコードの鑑賞会を同時進行で行うことができました。天候不良のため、急に決まった予定なので、みなさん全員にアナウンスできず申し訳ありませんでした。<m(_)_m>

当日の来荘者数は、1日だけでも関わらず404人を数え、昨年の2日間350名を越えました。雨で1日ダメにはなってしまいましたが、大変嬉しい出来事でした。

* * * * *



今回の「竹灯籠の夕べ」では、古い我孫子の写真スナップをスライドショーで流し、それに合わせていただくように、コカリナでは、懐かしい童謡曲などを中心に演奏を行っていただきました。写真にも興味を持って下さる方が多かったです。



そして、新館では、レコード鑑賞を行いました。今年のSPレコードは、題して「映画音楽特集♪」。聞き覚えの多い曲をはじめ、



お客様からのリクエストにも応える形で鑑賞会を行いました。SPレコードを懐かしいと思う方、見たことのない子どもから大人まで、秋の夜長に心地よい音楽が漂っていました。また、改めてSPレコード鑑賞会をできたらいいなあと思っています。

9月の来荘者数

9月の来荘者数は170人でした。イベントの多い中、みなさまありがとうございました！

★連絡事項★

●新規ガイドの募集

広報で6期生ガイドの募集を行いました！(*^_^*)

平成 29 年 11 月 22 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

128

11月の月例会

11月の月例会、みなさんには大変ご迷惑をおかけいたしました。<m(_)_m>

日にちについては、今後も原則1日開催で行います。11月のように、日にちが異なる場合は、みなさんに漏れのないようにお伝えしたいと思います。重ねてよろしくお願ひいたします。

杉村楚人冠と南方熊楠

今月の月例会では、杉村楚人冠記念館の高木学芸員から「杉村楚人冠と南方熊楠」をお送りしました。南方熊楠は、今年生誕150周年を迎え、今注目の的となっています。

●南方熊楠について



南方熊楠生誕150周年記念展示

「知の巨人」熊楠と新聞人楚人冠

平成29年10月7日(土)～平成30年1月8日(月・祝)

我孫子市杉村楚人冠記念館
〒270-1153 千葉県我孫子市緑2-5-5
電話 04-7182-8578

ここで、南方熊楠について、基本情報から確認していきます。熊楠は、慶応3(1867)年和歌山生まれで、旧制和歌山中学校第一期生として、その頭脳を開花させます。そして、帝国大学予備門では、同期であった夏目漱石、正岡子

規等、そうそうたる顔ぶれと肩を並べていました。まさに、近代教育から輩出された世代ということができます。

病のため、和歌山へ一時帰郷後、明治20年アメリカへ留学、ミシガン州立農学校で学びます。この留学の頃から植物採集に目覚め、フロリダ州、キューバ滞在を経て、ロンドンへと渡ります。大英博物館の図書館への出入りも増え、科学誌『ネイチャー』にさかん

に投稿するようになります。

実家からの送金も途絶えたためそれを機に帰国。学位は取りませんでした。田辺に移住してからは、熊野の山中で植物採集をさかんに行い、10種の変形菌など、多くの新種を発見します。

(※変形菌とは…変形体と呼ばれる栄養体が移動し、微生物などを摂食する動物の性質を持ちながら、小型の子実体を形成し、胞子により繁殖するといった植物的性質を併せ持つ生物のことです。)

●熊楠と楚人冠との出会い



「羽山藩次郎と南方熊楠」

楚人冠(本名:広太郎)は、早くに父と死別し、伯父木梨貞斎宅に隣接する長屋に暮らします。その伯父宅に、田辺出身の喜多幅武三郎が下宿生としてやってきます。喜多幅は、旧制和歌山中学に入学し、熊楠と同期となり、そして終生の親友と

なります。杉村はここで喜多幅を通じて熊楠と面識を得たと思われます。熊楠は病気に伴い和歌山へ帰郷し、その際熊楠の同期生や後輩である杉村広太郎とも親しくなります。また、熊楠のお気に入りだった後輩として広太郎とは別に、羽山藩次郎、利光平夫が挙げられます。そして、翌明治20年熊楠と広太郎の文通が始まります。

●アメリカ時代の文通

南方熊楠顕彰館(和歌山県田辺市)蔵の広太郎写真は、熊楠がサンフランシスコ滞在中に送付したものとされます(次のページ参照)。サンフランシスコの商業学校に満足しなかった熊楠は、その後、ミシガン州へ移り、ミシガン州立農学校へ入学します。

上京して、同郷の先輩たちと交流するように



廣太郎写真（顕尊館蔵）

なった広太郎へのアドバイスも手紙には書いており、そのことから、同郷の人たちと交流を持っている広太郎は、アメリカに滞在していた熊楠には、友人の動向を伝える大切な情報元でした。

熊楠がフロリダ州に移った頃、文通は途絶えたと考え

られ、フロリダ～イギリスに渡るまでの熊楠は、あまり日本人との交流がないと言われています。

●熊楠の田辺定住まで

フロリダ州、キューバで植物採集に没頭し、熊楠はロンドンに移ります。ロンドンでは、亡命中の孫文と親しくなったと言われています。

イギリス大英博物館図書室に通った熊楠は、その博識ぶりから東洋部門の情報提供者として重宝されるようになりました。また、科学誌『ネイチャー』や『ノーツ・アンド・クエリーズ』に盛んに投稿し、名を知られるようになります。しかしながら、熊楠はフリーの研究者であり、生活資金は酒造家を創業した父と弟が頼りであったため、父の死後、弟は熊楠の遺産相続分を仕送りとしていましたが、それが尽きてしまうと送金を打ち切れることを伝え、熊楠はやむなく帰国しました。イギリス学术界には名を馳せたものの、学校を卒業していないため、学位はなく帰国後の行き先はありませんでした。

その後、田辺に定住し、結婚。植物採集に没頭し、新種を次々と発見しました。

●神社祭祀反対へ

楚人冠は、教師や通訳を経てのち、明治36年東京朝日新聞へ入社します。明治41年には世界一周会と立て続けに特派員を任されて、新聞記者として地位を確立します。明治42年に、全国紙で唯一熊楠を取



り上げています。しかしながら、熊楠は、楚人冠訪問時は深酒で寝込んでおり、取材には苦勞を重ねたようです。同じ年に、熊楠は、糸田の猿神社が合祀され、森林伐採が多くされてしまったため、憤激し、地元の『牟婁新報』への投書を皮切りに神社祭祀反対運動を始めます。『牟婁新報』経営者の毛利清雅は熊楠と楚人冠共通の友人で、それを読んだ楚人冠は投書内容に共感し、東京朝日新聞の連載中に一部を紹介したこともありました。

●御進講をめぐる

※御進講とは…天皇に対して学問上の講義を行うこと

昭和4年、海軍の観艦式にあわせ、昭和天皇が和歌山巡幸しました。昭和天皇は生物学者であり、しかも変形菌に関心を持っていました。熊楠の御進講は天皇の意向であったと考えられますが、無位無官である熊楠のような人物の御進講は例がありませんでした。これにより、熊楠はたちまち渦中の人となると共に、進講のための準備に多忙を極めたと言われています。

楚人冠との交流もさることながら、熊楠の行動範囲には驚かされます。生誕150年の節目の年となります。今一度、南方熊楠について学んでみると面白い発見があるのではないのでしょうか。

新入ガイドさんが4名参加してくださります！！

10月の広報紙で、新しいガイドの方を募集したところ、4名の方のご応募がありました！有難い限りです。次回の月例会でご紹介しますが、順次みなさんと一緒に活動をしていただきたいと思います。また、お知らせをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。(*^_^*)

10月の来荘者数

10月の来荘者数は171人でした。11月に入り、団体さまが多く訪れています。予約等、受けましたらご一報いただければと思います。

連絡・意見交換など

●庭園公開について

今年も庭園公開を行います。チラシ・ポスターご紹介させていただきました。



次回の月例会は…

2017年12月1日(金) みなさん、元気にお会いしましょう!(*^_^*)

旧村川別荘だより

129

平成29年12月21日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

12月1日(金)に月例会が開催されました。今年最後のシフトの調整(12月分と翌1月分)と、新しく参加して下さったガイドさんのご紹介をさせていただきます！今年の募集では4人の方々にご応募いただき、来年からまたみなさんと協力して旧村川別荘を盛り上げていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

12月になり、ここにきて急に冷え込みも厳しくなりました。年末まであと少しです。体調など、崩されないようにしてくださいね。



百年前の絵の場所を探して

今回の月例会では、先日JCOMでも放映されておりました「百年前の絵の場所を探して～白樺文学館所蔵の5枚の絵から～」という題目で、約100年前に絵に描かれた風景の場所を探すというものでした。

* * * * *

●絵の作者たち

～原田京平、三岸好太郎、バーナード・リーチ～

・原田京平(1895～1936)

白樺文学館では4回にわたる企画展を行いました。静岡県磐田郡の生まれで、上京してからは絵画や短歌を習いました。そして、大正10(1921)年に我孫子に来て、春陽会展覧会に「沼(手賀沼)」を出品し、その後も我孫子を題材にして、絵や短歌を数多く制作し、世田谷へと移住しました。



・三岸好太郎(1903～1934)

北海道札幌市に生まれた三岸は、上京し、白樺派の美術に魅了され、春陽会に出展し首席を受賞するなど、

その才能を開花させました。我孫子へは絵を描きに出かけたようです。



昭和9(1934)年に亡くなりますが、のち札幌に三岸好太郎記念館が設立されます。

・バーナード・リーチ(1887～1979)

バーナード・リーチは、香港生まれで、ロンドンに渡った際にエッチング技法を学びました。明治42(1909)年来日し、上野桜木でエッチング教室を開きます。その後、大正6(1916)年に柳宗悦邸に窯を築き、作陶に励みましたが、2年後に行われた11回目の窯入れの後、工房が焼失し我孫子を去りました。大正9(1919)年になると、濱田庄司と共にイギリスに渡り、セントアイヴスに登り窯を築き、さらに技術を磨きます。そして、昭和になり、再び来日し、日本民藝館の設立に尽力しました。



●絵の場所を探して

①原田京平の「坂道」

・制作年＝大正10(1921)年～昭和3(1928)年のいずれか

・絵を紐解く＝坂道、両側が法面(左がやや高く、右が低い)、奥に手賀沼、冬から春先(枯木、轍)



左側：原田京平作「坂道」 右側：現在の場所か

前ページの作品を見ると、第一小学校南側から手賀沼に向かって下りていく坂道ではないかと考えられそうです。

②原田京平の「道」

- ・制作年＝1921（大正10）年～1928（昭和3）年のいずれか
- ・絵を紐解く＝奥に手賀沼、その前に水田（新田）、ハケの道が奥に向かって緩やかにカーブ、右に畑と民家、冬から春先にかけてか？



左側：原田京平作「道」 右側：現在の場所か

天神坂付近から西側（手賀沼公園入り口付近）を眺めた光景と考えられます。

③原田京平の「手賀沼」とバーナード・リーチ「手賀沼」

- ・制作年 原田の「手賀沼」＝1921（大正10）年～1928（昭和3）のいずれか
- ・リーチの「手賀沼」＝1918（大正7）年 The Lagoon of Teganuma, Abiko
- ・絵を紐解く＝原田の「手賀沼」＝冬枯れの手賀沼、葦原の先に係留される小舟、対岸の景色が波静かな沼に写り込んでいます。村川家資料にも同様な写真。



左側：原田京平作「手賀沼」 右側：村川家資料

リーチの「手賀沼」（右側）＝夕方陽が沈む一瞬、一日の漁を終えた漁師が獲物を整理する場面。「…私は我孫子で彼が描いた千九百十八年の作「沼」の一枚を、わけても彼の傑作と思ふ。「沼」は手賀沼であって私には特に思ひ出が多い。或秋の夕方日が沈む



頃、彼が沼辺でこの景色に眺め入ってスケッチしてゐたのを覚えてゐる。その線や影の味ひに私は彼の心をまともに読む想ひがする。」（柳宗悦「私の知るリーチ」1920年）

→三樹荘から近い距離にある葦原の先＝現在の手賀沼公園あたりではないかと考えられます。秋の日没だとすると西南西方向を見て描いています。

「リーチ岬」とでも呼んでみてはいかがでしょうか。（*^_^*）



④三岸好太郎の「崖」



左側：三岸好太郎作「崖」 右側：現在の場所か

- ・制作年 1923（大正12）年～1925（大正14）年ころか？
- ・絵を紐解く＝崩落した崖に見える関東ローム層、稜線が二つに分かれている箇所は道、崖前に家屋の屋根、手前には谷津の水田か荒地、上から見下ろす感じ
- 楚人冠公園付近から東側を眺めたものか。

●まとめ

大正から昭和初期にかけて、我孫子は景色のよい別荘地として知られ手賀沼や崖などを求め画家が集いました。絵画は、色がついた貴重な資料です。今後「日記」などの裏付けを進め、正確な制作年月日を把握していけば、新しい発見がまた見つかるかもしれません。※「リーチ岬」ぜひ、広めていきましょう！！（^_^）

ガイド研修について

●「館山」に行きます！

来年の2月5日（月）に館山へ研修に行きます。参加ご希望の方は、申込書のご提出をお願いいたします！

次回の月例会は・・・

今回は平成30年1月9日（火）9時30分から旧村川別荘新館で行います。あっという間に年の瀬です…今年もみなさまには大変お世話になりました。年末年始はぜひとも有意義にお過ごしくださいね♪ また来年もどうぞよろしく願いいたします！

旧村川別荘だより

130

平成30年が始まりました

いよいよ平成30年が始まりました。本年もどうぞよろしくお願いたします。(*_*)

刀剣の歴史～銅剣から日本刀まで～

今月の月例会では、杉村楚人冠記念館で行われているテーマ展「楚人冠の刀剣鑑賞」に合わせて、“刀剣の歴史”について学びました。

●刀剣とは？

まず、刀剣そのものについてです。刀と剣、合わせて刀剣と呼ばれていますが、この二つは何か違うのでしょうか？まず一つには形の違いがあります。刀は片刃、剣は両刃が一般的で、これに材料が何かによって銅剣、鉄刀などと分類されます。

●日本列島における刀剣

日本列島においては、縄文時代晩期から弥生時代初期にかけて九州地方を中心に鉄器・青銅器が使われ始めたことが考古学の発掘調査などから分かっています。これは朝鮮半島から船で運ばれてきたもので、青銅製の銅剣も、弥生時代の初期の頃には、日本に渡ってきていたと考えられています。



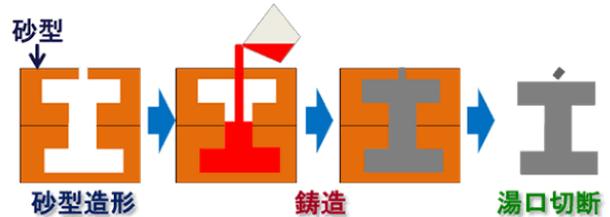
銅剣

●二つの製作工程

次に、刀剣の製作技法についてです。金属の加工方法には大きく分けて^{ちゅうぞう}鑄造（溶けた金属を鑄型に流し込み冷やして固める）と^{たんぞう}鍛造（加熱した金属を叩き延ばして成型する）の二つがあります。刀剣に関して言えば、基本的には鑄造（青銅）から鍛造（鉄）への技術的な変遷があります。これは青銅（軟らかい、低い温度で溶ける：約700度）と鉄（硬い、溶かすのに高い温度が必要：約1500度）の性質の違いに由来しています。炉などの技術が進歩したことにより、高い温度で金属を加工できるようになると、

青銅よりも硬質でより農具などに適した鉄がよく用いられるようになります。

こうして加工技術が進歩するにつれ、武器としては鍛造した鉄器が用いられるようになりますが、この後も祭器のように実用的なものでなかったり、鉄器の装飾部分などに関しては複雑な装飾が施しやすい青銅器も継続して使われます。



鑄造と鍛造

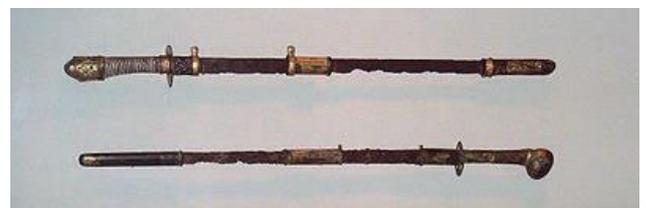
●装飾大刀の登場

古墳時代以降、自分の権威を示すシンボルとしての刀剣が現れます。列島にヤマト



直刀

政権という一大勢力が現れる中で、鍛造・彫金（金属を彫って装飾をする）技術の独占、中央と地方の関係性といったものが進み、権力者は自分の権威の表現を武具に求めるようになります。権力者の副葬品としては、古墳時代前期では武骨な直刀、後期には様々な装飾を施した装飾付大刀が現れます。これは前期の権力



装飾付大刀（上：圭頭大刀、下：頭椎大刀）

者が武人的な権威の誇示を重視していたのに比べて、後期の権力者は技術や他勢力との結びつきを持つ政治家的な権力の誇示を重視したことを示していると考えられます。

●大刀と太刀

室町時代以降、戦闘が馬に乗った武士の一騎打ちから足軽などの歩兵を中心とした集団戦（徒戦）に変化したことから、太刀に比べて短寸で反りの浅い打刀が登場します。現在一般に日本刀と呼ばれているのはこの打刀です。

●太刀と打刀

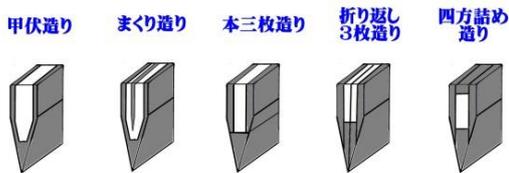
室町時代以降、戦闘が馬に乗った武士の一騎打ちから足軽などの歩兵を中心とした集団戦（徒戦）に変化したことから、太刀に比べて短寸で反りの浅い打刀が登場します。現在一般に日本刀と呼ばれているのはこの打刀です。



●鋼

太刀や日本刀の素材は鉄なのですが、ここで使われる鉄は鍛錬によって炭素量が調整され、また部位によって炭素量の異なるものが使用されます。この砂鉄を原料とする鉄を特に玉鋼と呼びます。太刀や日本刀の刀身の作りを見ると大きく二つの部分に分けることができます。刀身の中心部には心金と呼ばれる炭素量の多い軟らかい鉄が使われ、それを皮金と呼ばれる炭素量の少ない硬い鉄で覆うのが太刀や日本刀の大まかな造りになります。この二重の造りによって折れず、曲がらず、よく切れるという日本独自の武器が誕生したのです。ちなみに鋼という言葉は、元は刃金からきた言葉で

特定の金属の名称ではなく、刀の部位を指す言葉です。

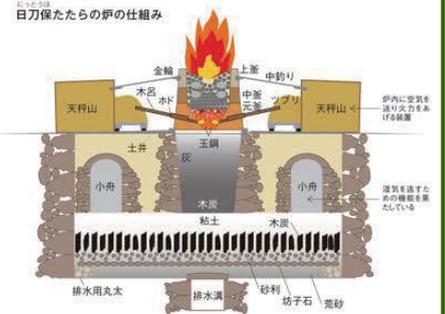


刀身の断面図

□・・・硬度の低い鋼材 ■・・・高硬度で刃先に当たる部位
刀身の造り

●日本刀の分類

日本刀はその古いものから順に古刀（～慶長年間（1568～1614））、新刀（～安永 1772～1781）、新々刀（幕末から明治初期）、現代刀（明治後期以降）の四つに分類されます。新刀期には、幕藩体制の中でそれまでとは違った作刀方法が研究され、海外から輸入された鉄（南蛮鉄）も使用されました。新々刀は幕末の動乱期に数百年ぶりに刀が武器として注目された際に生産された刀で、実用的な印象の強い刀です。明治9（1876）年の廃刀令によって新々刀が姿を消した後、明治後期に軍刀としての需要が生じて再び日本刀が造られるようになり、これ以降のものを現代刀と呼びます。



●刀剣鑑定

最後に刀剣鑑定のお話です。有名な刀剣鑑定士の一族に本阿弥家があります。今回、杉村楚人冠記念館の展示に登場する本阿弥光遜は元々医師の家の出でしたが、本阿弥分家の本阿弥琳雅に師事し、後に断絶していた別の分家を継ぐことを許された人物です。展示では、刀剣についての楚人冠のメモ書きなど、楚人冠が刀剣の学習に使った自筆のメモも展示しています。「楚人冠と刀」この機会にぜひご覧ください♪♪

ひなのまつり開催にあたって

今年も鷲見さんのご協力により“ひなのまつり”を開催いたします。（*^_^*）

期間は、2月23日（金）～3月4日（日）です。

※日にちの間違えのないようお願いいたします。

※2月23日よりシフト時間は9時～16時とします。

全員で協力してイベントを盛り上げましょう！！

連絡・意見交換など

●館山への研修会について

☆集合午前7時50分 ☆参加費2,500円です！

（詳細は以前の通知をご覧ください）。

次回の月例会は・・・

2018年2月5日（月）館山の研修会となります。

午前7時50分我孫子駅北口ふれあい広場集合です！

旧村川別荘だより

131・132 合併号！

平成30年2月・3月を振り返って…

平成30年も早いもので3月に入り、春の訪れとともに、桜の季節を迎えていますね。

今年度最後の村川だよりは、先月開催した「ガイド研修会 in 館山」、今年も大好評の「ひなのまつり」、そして今月の学習テーマ「バーナード・リーチのエッチング」について、豪華3本の振り返り特集をお送りいたします。ゆっくりとご覧ください。(*^_^*)

1. ガイド研修会 in 館山

2月5日(月)に、総勢24名で千葉県館山市へガイド研修会に行きました。思いのほか道路もスムーズで、時間が限られている中でも多くのことを学び、吸収することができたのではないかと思います。○旧千葉県立安房南高等学校

我孫子駅前を出発してから2時間と少し経ち、館山市へと到着しました。まず、最初に向かったのは県指定有形文化財である“県立安房南高等学校”です。そこで、高等学校の歴史のレクチャーを受け、校舎内を一回りご案内していただきました。



県立安房南高等学校は、歴史は古く、始まりは明治時代までさかのぼります。当時は、安房郡の高等学校として開校しており、校舎は郡会議事堂を使用していました。



教室の入り口には引き違い扉であり、閉めた状態でダイヤの形をするような飾り棧となっています。



廊下や教室の窓は、1枚のフレームに縦2本、横3本の棧が走ります。窓の構成は絶妙なバランスがあり、廊下も広がったのが印象的です。



階段も、みなさんからは「こんなだった！」等々、懐かしさも聞かれました。広くゆったりしているのが特徴的な廊下でしたね。



校舎を一回りし、階段を降りると、少し資料室のような展示スペースがありました。昔の書類や図面、道具類をはじめ、廊下には歴代の制服が並んでおり、ご案内をしていただいた卒業生の方々から、いろいろな説明を受けることができました。(写真は編集Tカメラ)

○青木繁「海の幸」記念館・小谷家住居見学



続いて向かった先は、「小谷家住宅」です。

1904(明治37)年夏、22歳の青年画家・青木繁は画友の坂本繁二郎・森田恒友・福田たねとともに房州布良(千葉県館山市富崎地区)の漁師頭の小谷喜録宅に滞在し、名画『海の幸』を描きました。大海原に照りつける熱い陽射し、マグロ延縄漁で活気づいた漁村の風景のなかで描かれたこの絵は、西洋画としては、日本で最初の重要文化財となりました。

その後小谷家住宅は、明治20年代の漁村を代表する建造物として高く評価がなされ、2009(平成21)年秋、館山市有形文化財に指定されました。

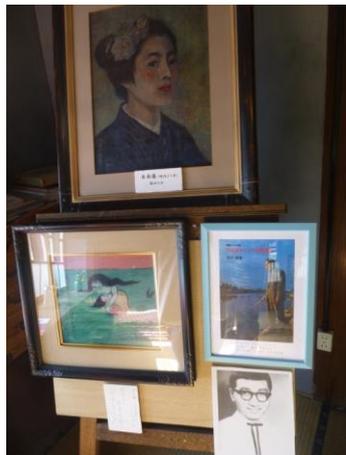


『海の幸』1904年制作 石橋財団プリジストン美術館蔵【重要文化財】
(上記写真はいずれもHPより掲載)



左写真：小谷家内の欄間（一部分）

右写真：青木繁と結ばれた福田たねの自画像や孫の作品及び写真（青木繁の孫「石橋エータロー」はハナ肇とクレイジーキャッツとして活躍した）



○布良崎神社見学



布良崎神社 Photo by Yoshihiro Shimada

南房総・館山市
布良という聖地

(上記写真はいずれもHPより掲載)

もう1つの見学場所は「布良崎神社」です。

本殿は木造神明造、拝殿は木造入母屋造で「千葉県安房郡誌」によると明治四十八年建築だそうです。自然豊かな景色とのコラボレーションは、まさに絶景でした。



研修へ行った日は、風も強くなく富士山が見えましたよね。本当に良い景色でした。

上記2枚は編集Tのカメラですが、何とかきれいに撮れました。(^^)

この研修については、NPO法人安房文化遺産フォーラムの方々に多大なるご協力をいただきました。短い時間の滞在ではありましたが、学ぶことが多くありました。これを機会に館山の歴史や文化を吸収してみるのもよいかもしれませんね。(*_*)

* * * * *

2. ひなのまつり

今年度も鷺見さんやスタッフさんのご協力により“ひなのまつり”が開催されました♪♪(^^)
今年のテーマは、「海の幸・山の幸」です。



入場者数は9日間で933名。今年も多くの方々に喜んでいただき、かわいらしい作品を見ていただきました。本当によかったです。今年もありがとうございました！



BS朝日「百年名家」再放映があったこともあり、建物を見ていく方もいらっしゃいました。^^

3. バーナード・リーチのエッチングについて

2月17日(土)～20日(火)に、市民プラザにて「文化財展」が行われました。その際に、白樺文学館に所蔵している版画の一種である「エッチング」を展示しました。3月の月例会では、我孫子にゆかりのあるバーナード・リーチのエッチングについて学びました。

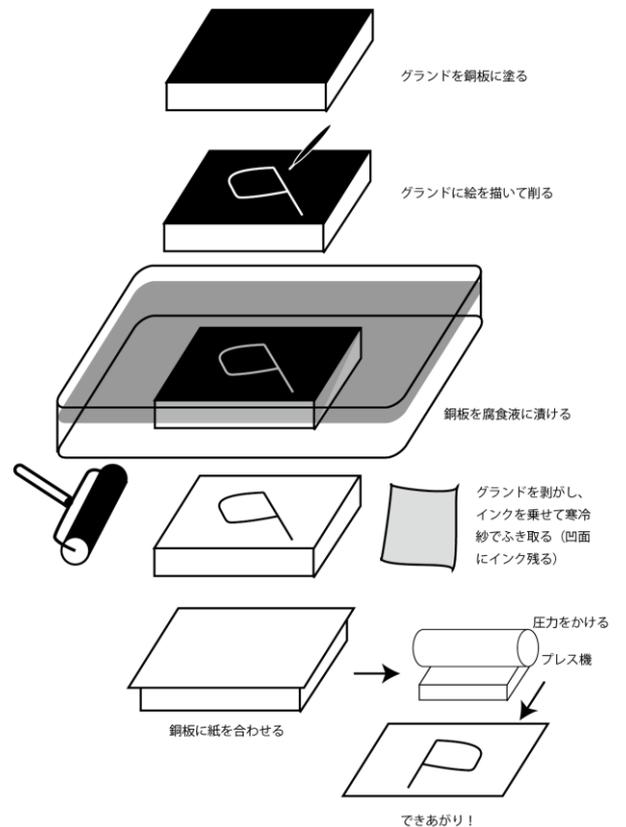
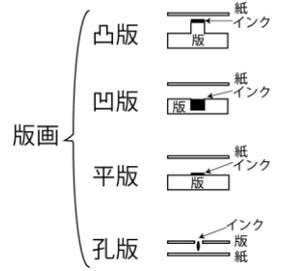
●バーナード・リーチについて

1887(明治20)年香港で生まれ、1907(明治40)年より、ロンドンでエッチング技法を学びました。1909(明治42)年には来日し、上野桜木でエッチング教室を開き、さらに白樺派と交友を重ねます。1916(大正5)年年末に我孫子の柳邸(三樹荘)を訪れ、その後作陶に励みます。1920(大正9)年には、濱田庄司と共にイギリスに渡り、セントアイヴスに登り窯を築きます。そして、1922(大正11)年リーチポタリー(工房)を設立。失われつつあった伝統的なスリップウェアの技術を守り、各地の窯を巡って技法の研究に臨み、戦後は陶芸や民藝を広める活動を通し、若者の芸術家を育てました。1979(昭和54)年に亡くなります。



●エッチングとは？

版画の一種。版画はその版の仕組みから大きく4つに分類(凸版画、凹版画、平版画、孔版画)。また、印刷する版面の種類によって木版画、銅版画、石版画に分けられる。(→エッチングは銅板凹版画のひとつ。「腐食」を意味する)



●エッチング作成手順(上記図参照)

①版面となる銅板に腐食防止の黒ニス(グランド、と呼ぶ)を塗る～黒ニスの代わりに松脂の粉を銅板に振りかけて火であぶる方法(アクアチント、と呼ぶ)もある→後述

②銅板を針(ニードル)、刃物などの道具で引っ掻く～引っ掻いた箇所の黒ニスが取れて窪む

③銅板を腐食液(硝酸など)に漬ける。黒ニスが取れた部分が腐食し、溝が深くなる。～漬けた時間が長くなると、溝が深くなる→インクが多く残るため、色が濃くなる。

④黒ニスを洗い流し、インクを塗って、布でふき取る～溝の部分にのみインクが残る

⑤銅板に紙をのせてプレス機で圧をかける→紙にインクが転写され、エッチングの完成

●エッチングの様々な技法

①ドライポイント～鋼鉄製のニードルなどで腐食防止の黒ニス（グランド）に傷をつける。にじんだ線の表現に用いる。

②メソチント～先端に細かい溝が掘られた、のこぎりのような道具で無数の細かい線を掘る。中間諧調のグラデーション表現に用いる。

②アクアチント～松脂の粉を銅板に振りかけて火であぶると、松脂が溶けた部分と松脂が乗っていない部分ができる→腐食液に漬けると「ボツボツ」な面ができ、インクをのせると「細かいドット」の表現が可能となる。

③ソフトグランド～グランドに動物性油脂を混ぜたもの。これを銅板に塗り、トレーシングペーパーなどの薄紙を乗せ、硬いペンでなぞるとソフトグランドが紙に吸い取られる。腐食液に漬けると、ソフトグランドが薄くなった箇所から腐食するため、まるでペンで描いたような質感の表現ができる。

●バーナード・リーチのエッチングについて

☆作品を通じてみてみます。

①「手賀沼」The Lagoon of Teganuma, Abiko 1918 (大正7)年

柳宗悦「私の知れるリーチ」

「…私は我孫子で彼が描いた千九百十八年の作「沼」の一枚を、わけても彼の傑作と思ふ。「沼」は手賀沼であって私には特に思ひ出が多い。或秋の夕方日が沈む頃、彼が沼辺でこの景色に眺め入ってスケッチしてみたのを覚えてゐる。

その線や影の味ひに私は彼の心をまともに読む想ひがする。」

(柳宗悦「私の知れるリーチ」1920年)

※ソフトグランド技法を用い、鉛筆で描いたような雰囲気を出している

②「霧の妙義山」

Mountain gorge in mist Myogi 1913 (大正2)年頃

・ゴツゴツした山肌に湧き上がる霧、山水画のような仕上がりとなっている



③「海辺」制作年次不詳

・海沿いの松林、引き揚げられた和船、流れ着いた魚や貝、ガラスビンなどの細かい表現、日本の海辺の風景、瑞雲文様のような雲の表現



④「無題 (たたずむ人)」制作年次不明

・中央に小脇にイーゼル？を抱えた帽子の男、電柱が立ち並ぶ水辺を眺める。ほぼ線のみ表現。男はリーチ本人？



⑤「無題 (水車小屋)」制作年次不明

・水路に水を引き込む水車、小屋で働く二人の人物。小屋の人物の快活な表情、小屋脇の植物が表現豊かに描写される。ほぼ線で表現される



⑥「無題 (ベニス)」制作年次不明

・海沿いの造船所、ゴンドラが行き交う、奥の煙突や帆船などが細い線で描かれて遠近感を出している。



⑦「無題 (河か湖)」制作年次不明

・静かな水面に景色が映りこんでいる、アクアチント技法により「面」で表現



●バーナード・リーチのエッチングの特徴

1918年頃は週末を中心に我孫子に滞在し、国内外各地を題材にしたエッチングを制作していました。

(東洋・西洋を超えた題材と表現＝「東洋と西洋の架け橋となる (marriage of east and west)」。) エッチング版画家として、細部に至る緻密な表現、様々な技法へ挑戦していたことは、バーナード・リーチの評価すべき側面の一つとも言えますね。(*_*)

次回の月例会は…

2018年4月4日(水) 旧村川別荘・新館となります。新年度もよろしくお願いたします。